

日本の大学数は 774 大学 私立大学が約 8 割！ 「2019 年度 日本の大学データ」より

旺文社 教育情報センター 2019 年 7 月

日本にはいくつの大学があるのだろうか。学部・学科の数は、また、もっとも多く学べる学問分野は何なのか。本記事では、日本の大学の基本データともいえるそれらをまとめた。

※本記事にて集計している大学・学部・学科に関しては、『螢雪時代 8 月臨時増刊 (2018 年 7 月刊行)』編集にあたり実施した、各大学へのアンケートをもとにしている。新増設や廃止のほか、編集上の若干変動も含まれる。

●日本には 774 大学あり、そのうち約 8 割が私立大学

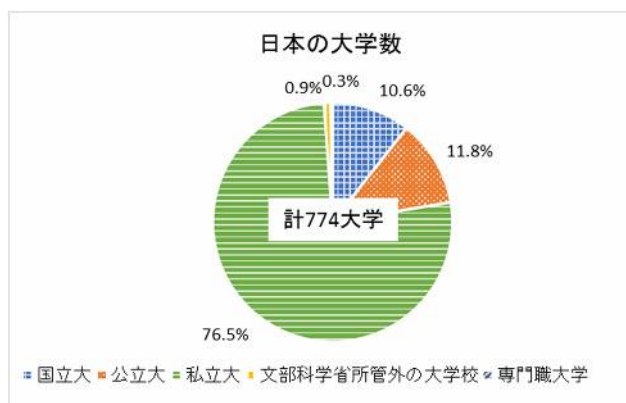
2019 年度 (4 月時点。以下、同) の日本の大学数は 774 大学。これはこの年 (2019 年) の 4 月入学者の学生募集を行なった大学だ。

日本の大学数という極めて基本的な数値は、実はあまり知られていない。文部科学省の「学校基本調査」でも毎年見ることができるが、これは日本に「存在する大学数」。つまり、募集停止をした大学や統合した大学でも、2~4 年生が在籍しているなど、大学として残っているうちはカウントされる。大学院しか持たない大学院大学も含まれる。

たとえば前年度で見ると (本年度はまだ「学校基本調査」が発表されていないため)、「学校基本調査=782 大学」に対し、「学生募集を行なった大学=768 大学」となる。しばしば日本の高等教育の規模について議論がなされるが、その場合、この「学生募集を行なっている大学」を日本の大学数と見るべきだろう。

一方で、防衛医科大学校や国立看護大学校など、文部科学省所管外 (以下、所管外) の大学校のうち、学士の学位がとれるところについては、大学同様と判断し、数に含めた。2019 年度創設の「専門職大学」についても、同様の扱いとした (専門職大学については後述)。

下の円グラフは、その内訳を表したものだ。私立大が全体の約 8 割を占めていることがわかる。国立大と公立大はほぼ同じ割合で、それぞれ約 1 割に過ぎない。圧倒的に私立大の数が多ことがわかる。

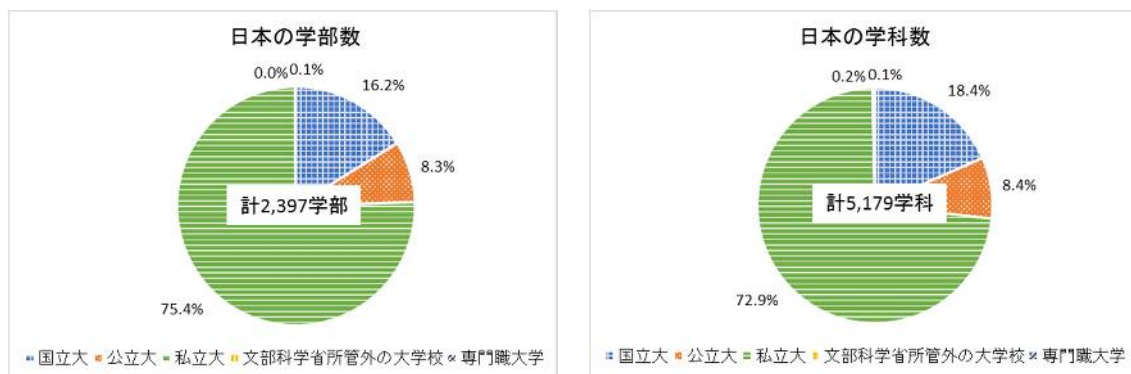


◆本記事では以下のものを日本の大学数としてカウント。

- ・国立大・・・82 大学
- ・公立大・・・91 大学
- ・私立大・・・592 大学
 - └うち通信制のみ・・・6 大学
 - └うち株式会社立・・・3 大学
- ・文部科学省所管外の大学校で学士の学位がとれるもの・・・7 大学校
- ・専門職大学・・・2 大学

※以下のものは含まない。
新設認可申請中の大学、募集停止をした大学、大学院大学

●学部の約 8 割、学科の約 7 割が私立大学



上の円グラフは、全国にある学部・学科（学域・学類など、学部・学科に類するものを含む）の数と、その学校種別の割合を表している。

学部数は、国立大 388 学部、公立大 199 学部、私立大 1,807 学部、所管外 1 学部、専門職大学 2 学部で、学科数は、国立大 952 学科、公立大 435 学科、私立大 3,776 学科、所管外 11 学科、専門職大学 5 学科。計 2,397 学部、5,179 学科が存在しているが、学部ではその約 8 割、学科では約 7 割が私立大であることが見てとれる。

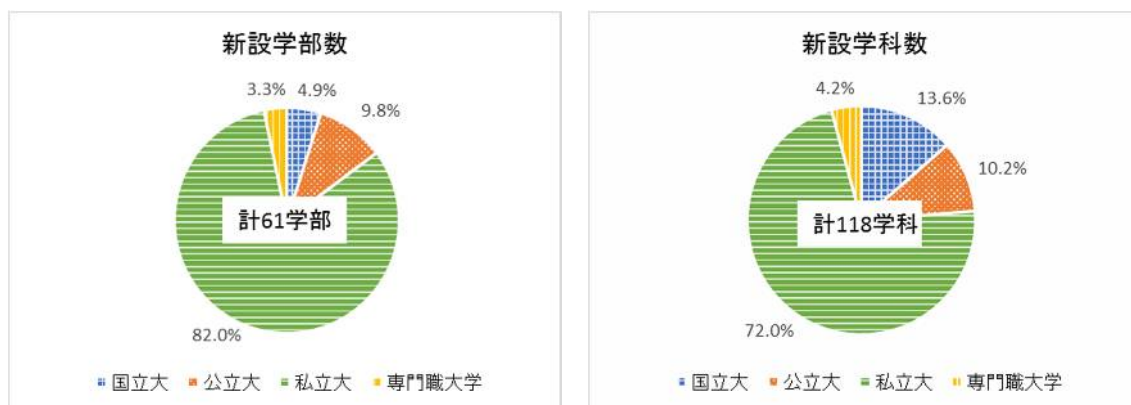
なお、大学数における割合と比較すると、学部・学科数では、国立大は割合が高く、一方、公立大は割合が低い。これは、国立大には総合大学が多く、一大学の学部・学科数が多いが、看護大学を中心として単科大学が多い公立大では、一大学あたりの学部・学科数が少ないためだ。

●2019 年度より専門職大学がスタート

ここまでは、全国のすべての大学・学部・学科について述べてきた。このうち今年度の新設（2019 年 4 月開設）の大学・学部・学科について見てみよう。

※ここでの新設とは、認可申請・設置届出・名称変更を指す。名称が変わっていれば新設としてカウント、変わっていなければ、認可申請・設置届出をしてもカウントしていない。

なお、2018 年 10 月に名称を変更した藤田医科大は新設としてカウントした。



新設大学は 13 大学で、公立大 1 校、私立大 10 校、専門職大学 2 校。ちなみに、公立大の 1 校は私立大→公立大に移行した公立千歳科学技術大だ。なお、募集停止をした大学はなかった。新設学部は、国立大 3 学部、公立大 6 学部、私立大 50 学部、専門職大学 2 学部の計 61 学部、新設学科は、国立大 16 学科、公立大 12 学科、私立大 85 学科、専門職大学 5 学科の計 118 学科となる（所管外は新設なし）。

2019 年度の新設大学を語る上で欠かせないのは、やはりこの年、新たにスタートした高等教育機関、「専門職大学」だろう（「専門職短期大学」も同様だが、ここでは割愛する）。55 年ぶりに大学体系に新たに類型が制度化され、初年度となる 2019 年度にはふたつの専門職大学が新設された。認可申請後の取り下げが相次ぎ、結果的にわずか 2 校ではじまった新制度。翌年開設を目指すベンジ組の動向も含め、2 年目の 2020 年度に注目が集まる。

なお、2020 年度開設予定の専門職大学については、以前掲載した記事「[2020 年新設大学情報 来年度 新設予定 学部・学科一覧](#)」をご覧ください。

●もっとも多いのは「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野

次に、日本の大学で学べる学問分野について見ていこう。2019 年 4 月時点で全国にあるすべての学科を旺文社分類の 71 の学問分野に分類し、多いほうから並べたのが下の表だ。

学問分野	学科数	学問分野	学科数	学問分野	学科数
1 経営学・経営情報学・商学・会計学	479	24 栄養学	132	49 住居学	53
2 社会学・観光学・メディア学	341	26 生物学・生命科学	127	50 美術	52
3 語学	328	26 応用化学	127	51 家政・生活科学	50
4 医療・保健学	326	28 政治学・政策学	126	52 地学	43
5 国際関係学・国際文化学	313	29 特別支援教育課程	116	53 航空・宇宙工学	42
6 情報工学	297	30 環境科学分野／その他	114	54 応用物理学	40
7 看護学	286	31 薬学	108	55 被服学	39
8 小学校・幼稚園課程	269	32 食物学	105	56 農業経済学	38
9 経済学	262	33 土木工学	101	56 畜産学・動物学	38
10 心理学	247	34 人間科学分野／人文系その他	97	58 水産学	36
11 文学	244	35 哲学	95	59 養護教諭課程	34
12 文化学	233	36 生物工学	88	59 教養学	34
13 機械工学	212	37 物理学	83	59 農業工学	34
14 電気・電子工学	202	37 農学	83	62 工芸	33
15 福祉学	196	39 医学	82	63 経営工学・管理工学	32
16 児童学・子ども学	179	40 農芸化学	80	64 歯学	29
17 体育・健康科学	175	41 化学	76	65 森林科学	28
18 芸術系その他(CG等含む)	172	42 教育学	72	66 獣医学	18
19 法学	166	43 医用・生体工学	71	67 船舶・海洋工学・商船学	16
20 数学・情報科学	158	44 生物生産・生物資源学	65	68 資源工学	15
21 建築学	156	45 材料工学	64	69 原子力工学	11
22 デザイン	142	46 総合科学	62	70 教育支援等その他	8
23 史学・地理学	136	47 画像・光工学分野／その他	61	71 高等学校教員養成課程	1
24 中学校課程	132	48 音楽	58		

※学科が複数の分野に分類できる場合は、それぞれの分野でカウント（重複してカウント）した（記事中の他の表も同様）。

もっとも多いのは「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野だ。「経済学」分野も上位 10 分野に入っている。都市部や地方を問わず、全国各地で企業経営を支える実学という理由はもちろんのこと、学科の設置にあたり、理系学科のように設備投資がかからないこと、国際経営学科や経営情報学科など、時代に応じて細分化していったこと、かつての経営系的女子短大が共学 4 年制化したことなども挙げられよう。

次いで学べる学科数が多いのは「社会学・観光学・メディア学」分野。近年の外国人観光客の増加に加え、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、ますます関心が高まっている観光学分野や、国の地方創生・地域活性化の流れを受けた地域発展系の学科、また、複雑化する現代社会における諸問題解決のスキルを身につける現代社会学科といった学科が、近年、多く見られるようになった。上位 10 分野中、3 分野を除くすべてが文系の学問分野となった。

理系では、いまや生活に欠かせないコンピュータ、ネットワークに関連するさまざまな技術を学ぶ「情報工学」分野、そして、資格取得率が高く、将来に直結する医療系のなかから、「医療・保健学」分野と「看護学」分野が上位に入った。

● 国立大は理系、公立・私立大は文系の学部が上位

国立大学		
	学問分野	学科数
1	情報工学	79
2	機械工学	73
3	電気・電子工学	71
4	数学・情報科学	63
5	応用化学	60
6	小学校・幼稚園課程	54
7	中学校課程	51
8	土工学	50
9	経済学	47
10	特別支援教育課程	46
10	農学	46

公立大学		
	学問系統	学科数
1	看護学	50
2	経営学・経営情報学・商学・会計学	44
3	情報工学	37
4	国際関係学・国際文化学	29
5	医療・保健学	26
6	経済学	25
7	文化学	24
8	語学	23
8	デザイン	23
10	福祉学	21

私立大学		
	学問系統	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	391
2	社会学・観光学・メディア学	280
3	語学	279
4	医療・保健学	268
5	国際関係学・国際文化学	251
6	小学校・幼稚園課程	211
7	心理学	204
8	文学	200
9	看護学	192
10	経済学	190

上の表では、全国の学科を分類した上でさらに国公立大別にし、それぞれの上位 10 分野を掲載した。

国立大に関しては、工学系の学問分野が上位を占め、理系が多数ランクインしている。また、文系では、教育・教員養成系の学問分野が多いことがわかる。全体でもっとも多い「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野は、国立大のみ上位 10 分野に入っていない。

公立大には「看護学」分野がもっとも多く、「医療・保健学」分野も上位に入ってきている。地域貢献は国公立を問わず、すべての大学に課せられたテーマではあるが、特に公立大にとっては直接的な課題だ。そのなかでも医療を担う人材の育成は、地域からのニーズが高く、大学側にとっても、貢献度合いが目に見えやすい。公立 91 大学中、「看護学」単科の大学は 10 大学、「医療・保健学」とあわせて、いずれか、または両方が学べる大学は 50 大学にもものぼる。

私立大は「経営学・経営情報学・商学・会計学」「文学」「経済学」といった伝統的に多い分野のほか、現在の、あるいはかつての「学科新設ブーム」を色濃く反映している。現在のトレンドは「語学」「国際関係学・国際文化学」の国際系だ。また、2019 年度は私立大において「看護学」分野の新設学科が多かったため、昨年よりも順位を上げている。同じ医療系の「医療・保健学」分野についても、同様に学科新設が目立った。

●地区によっては学べない学問もある

北海道・東北		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	42
2	情報工学	34
3	看護学	33
4	医療・保健学	26
5	福祉学	25
6	小学校・幼稚園課程	24
7	経済学	23
8	文化学	22
8	社会学・観光学・メディア学	22
10	機械工学	20
10	電気・電子工学	20
10	農学	20

関東・甲信越		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	217
2	社会学・観光学・メディア学	160
3	国際関係学・国際文化学	155
4	医療・保健学	136
5	語学	134
6	文学	125
7	経済学	115
8	情報工学	113
9	文化学	104
10	心理学	102

北陸・東海		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	60
2	語学	54
3	看護学	45
4	国際関係学・国際文化学	41
5	小学校・幼稚園課程	40
6	情報工学	39
7	医療・保健学	38
8	文化学	36
8	社会学・観光学・メディア学	36
10	心理学	34

関西		
	学問分野	学科数
1	社会学・観光学・メディア学	79
2	経営学・経営情報学・商学・会計学	76
3	語学	72
4	医療・保健学	60
5	小学校・幼稚園課程	59
6	国際関係学・国際文化学	58
7	心理学	57
8	文学	51
8	看護学	51
10	経済学	50

中国・四国		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	48
2	医療・保健学	37
3	情報工学	35
4	小学校・幼稚園課程	34
5	看護学	32
6	社会学・観光学・メディア学	29
7	経済学	24
7	児童学・子ども学	24
9	心理学	23
9	語学	23

九州		
	学問分野	学科数
1	経営学・経営情報学・商学・会計学	50
2	語学	40
3	情報工学	36
4	医療・保健学	34
5	経済学	30
5	看護学	30
7	国際関係学・国際文化学	28
8	小学校・幼稚園課程	25
8	電気・電子工学	25
10	社会学・観光学・メディア学	24

※学科の履修地が複数（選択制、コースによって異なる、学年で変わる場合など）ある場合は、それぞれにカウント（重複してカウント）。本部のみ判明のものは、本部地をカウントした。

次に、地区別に見てみよう。国公私立大別と同様に、学科を分類して履修地別にし、それを地区ごとに集計した上で、それぞれの上位 10 分野を掲載した。

「経営学・経営情報学・商学・会計学」分野は関西を除くすべての地区でもっとも多く、関西でも 2 番目に多い。さらに、全国的に見たときに多い「社会学・観光学・メディア学」「語学」分野などが並んでおり、学べる学科数の多い分野のラインナップは、地区別に見ても大きくは変わらない。しかし、注意深く見ていくと、わかることもある。

たとえば、関東・甲信越を除いたすべての地区の上位 10 分野に「看護学」「小学校・幼稚園課程」分野が入っている。将来的に、その地域で暮らしていく上で生きる資格を取得できる学科が多く存在しているということだ。

また、学べる学科が大都市のある地区に集中している学問もある。たとえば、関東・甲信越、関西地区の上位 10 分野に入っている「文学」分野は、その 2 地区で、学べる学科数全体の約 7 割を占める。さらに、どの地区でもだいたい、すべての学問分野を学べるが、「原子力工学」「経営工学・管理工学」「船舶・海洋工学・商船学」分野など、地区によっては学べないものも存在する。

(2019.07 阿部)